

ルカの福音書 26回
右手の萎えた人の癒し
ルカ6:6~11

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①この時期、イエスは公生涯の重要な時期に入っていた。
- ②口伝律法に関して、パリサイ人たちとの論争が始まる。
- ③福音書の中には、安息日論争が7回出てくる。
- ④ルカは、4回記録している。

*6:1~5 弟子たちが麦の穂を摘んで食べた。

*6:6~11 イエスは、右手の萎えた人を癒した。

*13:10~17 イエスは、腰が曲がった女を癒した。

*14:1~6 イエスは、水腫をわずらっている人を癒した。

(2) イエス時代のユダヤ教では、安息日が最も重要な律法であった。

- ①パリサイ人たちは、安息日にほぼすべての活動を禁じた。
- ②自分たちは、都合良く生きていた。
- ③自分はメシアだと主張するイエスが、安息日を守らないのはおかしい。

(3) 安息日に関する最近のニュース

①2018年11月 エルアル航空のトラブル

ニューヨークを木曜に出発予定だったエルアル航空便が、乗員の交通が問題で5時間も出発が遅延し、安息日前に到着できない事態に。宗教派の乗客が飛行機から降りると言い、さらに出発が遅れた。

②2019年3月 腎臓移植を受ける男性

超正統派の男性が腎臓移植を受ける順番が来たが、安息日で電話に出ないため移植責任者の女性が夫の警官に相談。警察がパトカーで男性を自宅から病院に搬送する珍事態に。手術は成功したという。

③2019年11月 公共交通機関の運行

テルアビブ市議会が、安息日の公共交通機関の運行計画を承認。市役所前では小規模な抗議デモ。

④2021年11月 子ども用ワクチン到着

子ども用のワクチン100万回分が土曜に到着したのは安息日違反だとして、ユダヤ人の子供に接種するのを禁じると、超正統派のホタ師が宣言。政府は意図的に

安息日を破っており、冒涇だと非難した。

(4) 安息日はユダヤ教の重要な戒律であり、習慣である。

①しかし、誤用すると弊害が出て来る。

(5) 安息日論争のテーマ

①祭儀的律法と人間の必要とは、どちらが重要か。

②イエスは、安息日の主である。

2. アウトライン

(1) 畏を仕掛ける宗教的指導者たち (6~7 節)

(2) 論争を仕掛けるイエス (8~10 節)

(3) 癒しの結果 (11 節)

3. 結論：自問自答すべき項目

2 番目の安息日論争について学ぶ。

I. 畏を仕掛ける宗教的指導者たち (6~7 節)

1. 6 節

Luk 6:6 別の安息日に、イエスは会堂に入って教えておられた。そこに右手の萎えた人がいた。

(1) これは、別の安息日に起きた出来事である。

①ルカは、ここでも、イエスの教えを癒し以上に強調している。

(2) 会堂に右手の萎えた人がいた。

①ルカの医者としての視点が反映されている。「右手の萎えた人」。

②この人の状態は、深刻であった (ほとんどの人は、右手が利き腕である)。

③律法学者たちやパリサイ人たちが、この人をそこに置いたのであろう。

2. 7 節

Luk 6:7 律法学者たちやパリサイ人たちは、イエスが安息日に癒やしを行うかどうか、じつと見つめていた。彼を訴える口実を見つけるためであった。

(1) 宗教的指導者たちは、イエスを訴える口実を見つけようとしていた。

①過去の観察から、イエスが安息日に癒しを行うことは予想された。

②癒しを行えば、安息日違反でイエスを訴えることができる。

(2) 現代のハラハー

①安息日に命を救うのは、義務である。

②重病の人を治療するのは、制限付きで許可される。

*イエス時代でも、命にかかわる場合は治療してもよいとされていた。

③その他の病気は、治療してはならない(薬を用意するのは労働である)。

*右手の萎えた人の癒しは、現代のハラハーでも、許可されない。

II. 論争を仕掛けるイエス(8~10節)

1. 8節

Luk 6:8 イエスは彼らの考えを知っておられた。それで、手の萎えた人に言われた。「立って、真ん中に出なさい。」その人は起き上がり、そこに立った。

(1) イエスは、彼らの考えを知っておられた。

①5:22

Luk 5:22 イエスは彼らがあれこれ考えているのを見抜いて言われた。「あなたがたは心の中で何を考えているのか。」

②イエスは、預言者である。

③イエスは、神の子である。

(2) イエスが先に論争を仕掛けた。

①イエスは、その人に「立って、真ん中に出なさい」と命じた。

②その人は、その命令に従った。

③人々の関心が、これから起ころうとしていることに向けられた。

2. 9節

Luk 6:9 イエスは彼らに言われた。「あなたがたに尋ねますが、安息日に律法にかなっているのは、善を行うことですか、それとも悪を行うことですか。いのちを救うことですか、それとも滅ぼすことですか。」

(1) イエスは2つの質問を投げかけた。

①最初の質問

「安息日に律法にかなっているのは、善を行うことですか、それとも悪を行うことですか」

*安息日に善を行うことは、律法に合っている。

*安息日に悪を行うことは、律法に合っていない。

②次の質問

「いのちを救うことですか、それとも滅ぼすことですか」

*安息日にいのちを救うことは、律法に適っている。

*安息日にいのちを滅ぼすことは、律法に適っていない。

*この場合の「いのちを救う」とは、霊的救いではなく、肉体的癒しである。

(2) 宗教的指導者たちは、その質問に答えなかった。

①当然の答は、「安息日に善を行うことは、律法に適っている」である。

②そう答えれば、イエスが癒しを行うことを承認したことになる。

3. 10節

Luk 6:10 そして彼ら全員を見回してから、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。そのとおりにすると、手は元どおりになった。

(1) イエスは構わずに、善を行われる。

①彼ら全員を見回した(宗教的指導者たちと対決された)。

②その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。

③イエスのことばには、癒しの力がある。

(2) その人は、イエスの命令に従った。

①そのとおりにすると、手はもとどおりになった。

②彼の内には、信仰が見られる。

(3) イエスはことばを發しただけで、何も行動を起こしていない。

①宗教的指導者たちは、イエスを安息日違反で訴えることができない。

②イエスが預言者であること、また、神であることが証明された。

III. 癒しの結果(11節)

1. 11節

Luk 6:11 彼らは怒りに満ち、イエスをどうするか、話し合いを始めた。

(1) イエスは、安息日の律法を犯すことなく、2つのことを同時に行った。

①宗教的指導者たちを辱めた。

②右手の萎えた人を癒した。

(2) 宗教的指導者たちの反応は、怒りであった。

①ここからイエスに対する殺意が生まれた。

(3) ルカ 5 : 12 ~ 6 : 11

- ① 宗教的指導者たちとの論争の始まり
- ② 6 : 11 は、このセクションのまとめである。
- ③ イエスが十字架に架けられる約 2 年前の出来事である。
- ④ マタとマコでは、イエス殺害の方法を相談し始めたとある。

結論：自問自答すべき項目

1. 彼らは、苦しんでいる人を解放するよりも、口伝律法を守ることを優先させた。

- (1) 安息日の律法が、いのちを生かすために与えられていることを理解しなかった。
- (2) 安息日の律法は、神の愛と深く関連している。
- (3) 神の愛を表現する方法は、隣人愛の実践である。
- (4) 私たちは、神への愛と隣人への愛を最も重視しているだろうか。

2. 彼らの信仰は否定的、後ろ向きであった。

- (1) 彼らは、律法の細部にこだわり、律法に違反しないことだけを考えていた。
- (2) イエスの信仰は肯定的で、前向きであった。
 - ① 愛の実践
 - ② 困っている人の救助
- (3) 私たちは、「〇〇をすべきでない」という思いだけに囚われていないだろうか。

3. 彼らは、自分たちの信仰だけが正しいと確信していた。

- (1) 彼らは、イエスの教えを受け入れることができなかった。
- (2) 私たちは、キリスト教の生命力のほんの一部しか理解していない。
- (3) クリスマンとして成長する余地は、常にある。
- (4) 私たちは、自分の信仰や自分の教会の信仰がすべてであると思っていないか。